

中国建設銀行(00939)

【セクター】 銀行

【市場】 香港

【企業概要】

中国4大国有銀行の一角。預金残高と貸出残高（2021年12月末時点）はともに中国工商銀行に次ぐ2位です。貸出金の収益性を示す純利息マージン（NIM）は2.13%（21.12期）で、小幅ながら中国工商銀行（同2.11%）を上回っています。中国国内の銀行業務が全体の9割以上を占めます。うち個人向け業務が貸出規模ベースで全体の42%、純利益ベースでは全体の57%を占めます。普通株等Tier1を用いた自己資本比率は13.59%で、不良債権比率は1.42%です。

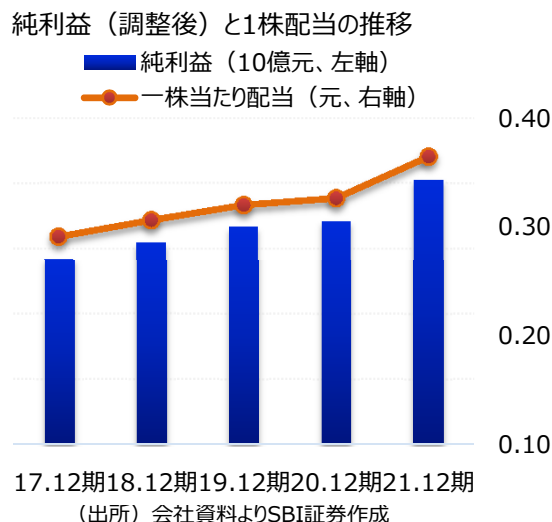
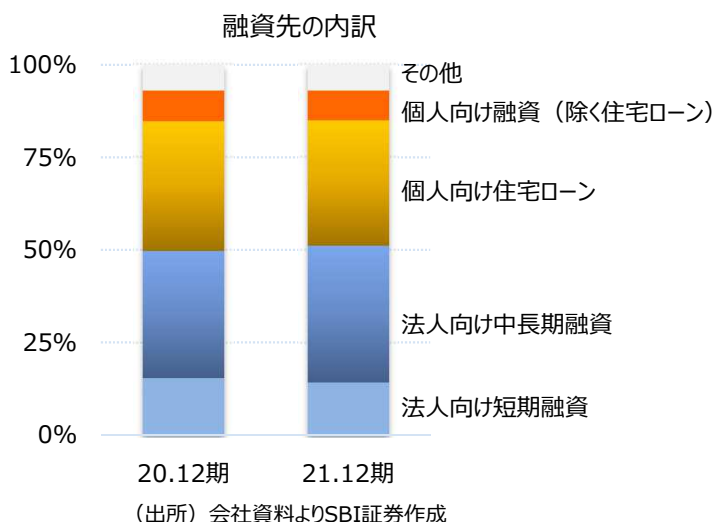
【業績】（単位：純収益、純利益は百万人民元、EPS、1株配当、BPSは人民元、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

決算期	業務純益	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
20.12期	573,520	181,225	0.62	0.20	6.0	10.6	8.9
21.12期	613,581	204,935	0.70	0.22	6.5	11.2	8.8
22.12期（予）	792,693	318,585	1.25	0.38	10.9	11.9	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

【主要指標】



【会社の見方】

中国経済の高成長期では2桁の増収増益を実現してきましたが、中国が安定成長期に入ってからからは1桁の増収増益となっています。預金獲得をめぐる競争激化も相まって、純利息マージンは他行同様に低下傾向にあります。ただし、業界内では比較的高水準を維持しています。融資先は、法人向けと個人向けがそれぞれ51%、42%（21.12期）です。法人向け融資のうち、交通運輸・倉庫・郵政とリース・商業サービス、製造業の3業種がともに18%、次いで電気・ガス・水道と小売りがともに10%、不動産業は8%と、比較的融資先が分散されています。これまで安定成長とともに、安定配当を実現してきました。

【見通し・注目点】

1-6月期の純利益（調整後）は前年同期比5%増となり、市場予想を小幅に下回りました。純利息マージンが2.09%となり、前年同期の2.13%より低下しました。競合と同様に、中国中央銀行による利下げ（貸出金利の低下）と、銀行間の預金獲得競争（預金金利の上昇）が響きました。一方、低下幅は業界最大手の中国工商銀行（2.12%→2.03%）に比べると、小幅でした。不良債権比率は1.40%で、21.12期末の1.42%よりやや改善しました。うち不動産業は小幅に上昇しましたが、引き続き、業界で低水準です。会社側は、不動産市場関連のリスクについて、コントロール可能と表明しました。

本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したものです。正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。